慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ジョン・フランシス・ブレイ（二）
Sub Title	John Francis Bray (2)
Author	遊部, 久蔵
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.2 (1962. 2) ,p.171(75)- 187(91)
JaLC DOI	10.14991/001.19620201-0075
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620201-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

一般機械製造業

(単位 百万円)

年期	投資	売上高	営業利益	全国銀行設備資金供給	固定資産
29 I	4,284	112,173	7,665	533	99,341
II	3,721	125,286	9,464	672	150,978
30 I	2,787	103,030	4,168	576	145,936
II	2,948	110,462	6,557	596	133,750
31 I	4,691	128,520	9,148	1,584	116,900
II	11,666	181,047	16,018	2,647	131,731
32 I	10,335	207,169	19,262	2,678	156,951
II	12,235	234,999	22,974	2,076	171,951
33 I	10,574	193,155	21,348	1,900	190,219
II	10,280	217,967	20,850	3,001	210,803
34 I	13,130	225,343	20,434	3,780	229,928
II	19,414	291,799	29,506	7,654	255,762
35 I	25,466	347,125	38,230	5,349	307,180
II	29,628	434,160	51,898	6,888	366,246

電気機械器具製造

(単位 百万円)

年期	投資	売上高	営業利益	全国銀行設備資金供給	固定資産
29 I	14,607	177,860	20,239	3,894	181,838
II	9,100	160,650	14,795	2,294	199,173
30 I	7,060	173,541	15,053	1,485	208,326
II	8,765	185,207	16,305	1,992	221,818
31 I	10,880	218,076	21,402	2,454	236,624
II	16,048	246,639	27,462	4,346	243,734
32 I	26,887	338,466	39,296	6,051	294,634
II	32,424	336,224	39,174	5,231	353,162
33 I	28,595	330,377	37,484	4,318	387,922
II	28,528	340,466	40,743	6,736	424,058
34 I	30,005	434,482	48,005	7,021	411,595
II	43,357	542,591	64,972	9,746	567,435
35 I	61,039	638,638	75,111	10,840	690,520
II	76,709	724,692	81,742	11,512	766,414

資料

ジョン・フランシス・ブレイ（二）

遊部久蔵

目次

一　発見史（前号）
二　文献目録
　A　著書（前号および本号）
　B　草稿および資料（本号）
　C　研究文献
三　評伝　（次号以後）
四　主著研究

二　文献目録

A、著書（承前）

(II) Bray, J. F.; The coming Age: devoted to the Fraternization and Advancement of Mankind, through religious, political and social Reforms; No. 1. (and Nos. 2 and 3). Detroit, 1855. 9", 3 pts. pp. vii, 24. R (S.R.) 123, P 174922.

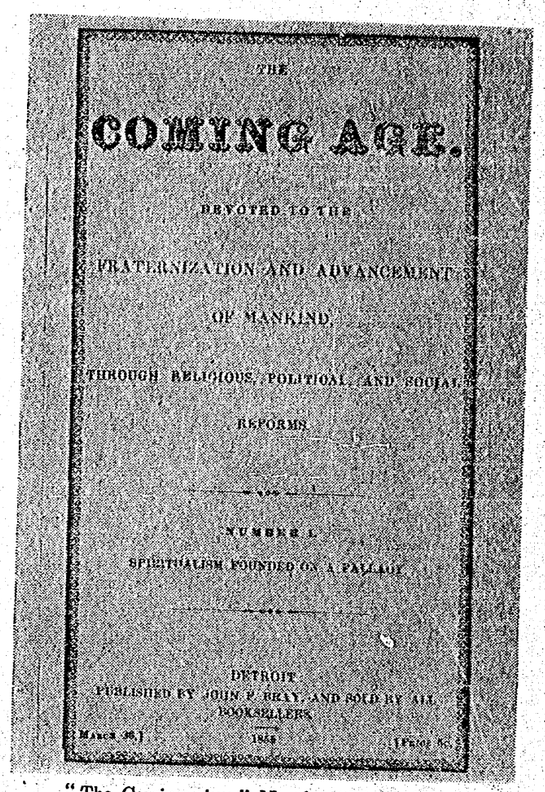
本書は全八篇中二篇しか刊行されないで（第一篇は一八五五年三月二六日、第二篇は同年四月九日刊）、第三篇は校正刷のままである。これは元来――No. 1, 2 の裏表紙の Prospectus によれば――、八篇の小冊子によって構成され、一八五五年末に二〇八頁の一冊本として刊行されるはずであった。その目次はつぎの如くである。

No. 1. Spiritualism founded on a Fallacy. pp. 1—8.
No. 2. The Origin of mundane and human Energies unfavourable to Spiritualism. pp. 9—16.
No. 3. The "spiritual Manifestations" philosophically considered as Indications of an original miraculous Faculty in Mankind. pp. 17—24.
No. 4. The Testimony of Christ respecting the miraculous Faculty, and its traditional Existence and Exercise.
No. 5. The coming Age millanial or miraculous.
No. 6. The "New Dispensation" rendered essential by, and adapted to the Progress, of, Science and Civilization.
No. 7. The Plurality of worlds as well as of their Prod-

ucts.

No. 8. The Principles of Life indicate the true Remedy for all Diseases.

しかしこれらの項目中、現存しているのは、はじめの三章のみである。[10] もともと本書（の一部分？）はすでに一八五三年にできていた。ブレイは『手帖』でのべている。「私は一八五三年に『神秘主義』を研究し、一冊の書物をかき、ボストン滞在中（一八五四年春）にそれを刊行しようとしたが幸にして失敗した。」一八五五年にようやく二分冊のみを刊行しえたが、その年の春、失職して中絶した。


THE
COMING AGE.
DEVOTED TO THE
FRATERNIZATION AND ADVANCEMENT
OF MANKIND,
THROUGH RELIGIOUS, POLITICAL, AND SOCIAL
REFORMS.
NUMBER 1.
SPIRITUALISM FOUNDED ON A FALLACY.
DETROIT:
PUBLISHED BY JOHN P. BRAY, AND SOLD BY ALL
BOOKSELLERS.
March 25, 1855. [Price 50 c.

"The Coming Age" No. 1. 1855. の表紙。

神秘主義の人気がまもなく急速におとろえたからであるとみているが、[13] イングリスは弟チャールズの正教的信仰心との摩擦をおそれたからであるとのべている。[14]

二冊の刊行された部分は不評であった。一般の読者にとっては気楽によむには冗漫に失し、科学者にとってはブレイの物理学上の知識が評価されなかったからであろう。[15]

要するにブレイの見解では、神秘主義思想の発生する根拠は、自然的原因がまだ適切に検討されないでいるということである。「生前私たち自身のとは別のあるいはより大なる才能をもっていなかった。

本書は当時アメリカにおいて人気のある論議の対象であった神秘主義を批判したものである。「多分その最大の興味は、ブレイがロバート・オーウェンとはことなって、あまりに懐疑的であって論証なしにテーブルの軽打や家具の運動を神秘的現象として承認できなかったという事実に存している。[11]」また、「来るべき時代」はブレイがひきつづき不可知論的見解を保持していることを示す点でとくに興味がある。[12]」といわれている。

本書はブレイがめずらしく「ベストセラー」になることを希望した書物である。しかしわずかに二分冊のみの刊行でやみ、前述の如く彼が『手帖』でこの事実を「幸にして」とうけとった理由については、カーは

た人々、重要な問題についてその忠告を私たちが願望も遵奉もすべきでなかった人々、死後の現世的知識や肉体的力におけるその進歩を私たちがたしかめる手段をもたない人々の神秘的な指導と支配とに依存するかわりに、私たちが他の有機体と同ように適切な条件下では私たちの幸福にとって必要であるすべてをなしとげる性質と能力とを付与されているということが、理性と類推とにより一層合致し、すべての私たちの能力による証明をより一層ゆるすのではないか？[16]」

ブレイの批判の立脚地は認識論的にいえば自然科学的唯物論であるが、ごく初歩的な常識論であるというのが、私が三篇をよみおえてのちの感想である。

注

(10) 本書に付されたイングリスの覚書による。ジョリフも、ブレイがはじめの三篇のみをかいたようにしるしている。(Fresh Light. p. 243.) なお、イングリスが本書について、一九三八年九月一七日にアナ・ブレイによってイングリスを介して Labadie Collection におくられたとのべているのは、草稿のことであろうか。とすれば、それははじめの三章のみの草稿であろうか。ちなみにマクス・ベアが前出セリグマン編『社会科学辞典』中のブレイの項目で、「一八五四年に彼は一書の執筆に従事したとしられているが、これが刊行されたという徴候はない。」(Encyclopaedia. Vol. II, p. 687.) とのべているのは、本書のことであると推定される。（本書に附されたイングリスの覚書、および Inglis. pp. 8, 11, 13—14. 参照。）

(11) Prichard. p. 21.
(12) Jolliffe. p. 9.
(13) Carr. p. 412.
(14) Inglis. p. 14.
(15) Prichard. p. 21.
(16) The coming Age. No. 2. pp. 15—16.

(III) Anon.; American Destiny; What shall it be, Republican or Cossack? An Agreement addressed to the People of the late Union, north and south. New York; published for the Columbian Association. 1864. [printed by Peabody & Soles, Pontiac Mich.] 8 3/4", pp. 44. R (S. R.) 124. P 174923.

〔 〕内はブレイの私蔵本の表紙にしるされている。また、by John F. Bray ともしるされている。これらは印刷されなかった。その内容目次は左の如くである。

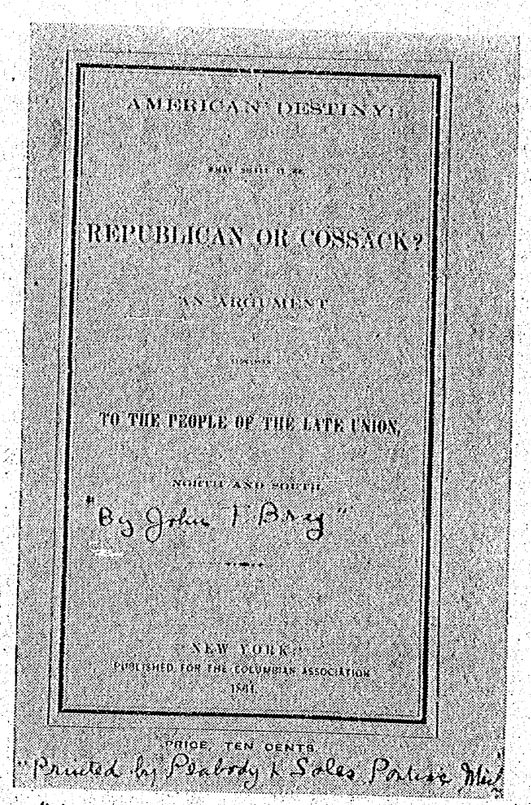
Chapter 1. Our past and present Condition. pp. 1—5.
Chapter 2. Principles of Government. pp. 5—15.
Chapter 3. The Republican and the Cossack. pp. 15—21.
Chapter 4. False Issues and Fallacies. pp. 21—34.
Chapter 5. The right and wrong Path. pp. 34—44.

本書は九〇〇部刊行。当局の細心の警戒のために僅少の部数しか流布しなかったといわれている。

本書は南北戦争（一八六一—六五年）中にかかれ、ブレイは本書

のなかで南部諸州の北部諸州からの分離（Secession）の権利を弁護している。その理由は、分離の権利が「真の共和国の基礎」であるという点にある。すなわち「分離の権利の存するところには専制主義または圧制は存しえない。分離はすべての時代を通じてすべての国民の間での自由のための庇護者である。それは国民と個人との個性を承認し、外部の影響が考慮されるかぎり彼等に自由を保証する。それは共和主義の柱石そのもの――それなくしてはすべての共和国は早かれおそかれコサック主義に没入する。――である。」[17]

ここではコサック主義という名称は専制主義と同意語として用いられている。それは共和制に対立する。「奴隷の自由と諸州の奴隷制とは一つの共和制的矛盾である。」[18] これがブレイが北部に反対する理由である。すなわち北部の人々は奴隷を自由にするかわりに南部の独立をみとめないことで、アメリカ独立の精神である共和制を破壊するものである。



"American Destiny" 1864. 著書私蔵本の表紙。

「奴隷制度廃止論者のたたかいは主義のためであって、事態のためではない。彼は抱負においては共和主義者であり、奴隷の解放のためにたたかう。彼の主義は賞賛を喚起する、というのはそれらは共和主義的であるからである。彼の実践はいまわしい、というのはそれらは全然コサックであるからである。彼の祈願は黒人の解放のためである。彼の努力は白人の奴隷化のためである。彼は四百万の未発達人種に感謝されない自由をあたえるために八百万の発達した人種を奴隷にしようとする。」[19]

「君は白人の自由を踏みつけることによって黒人の自由を確立することはできない。もしも君が白人にたいしてコサックであるならば、君は黒人にたいしてもコサックたるであろう。」[20]

『労働の不当な処遇』の著者が結果として奴隷制度を存続させようとする南部の擁護者になったということは、私たちにとって奇異な印象をあたえる。じっさい本書中には奴隷制度について、ブレイの以前の見解と矛盾するような言説があるが、これについてロイド・プリチャードはつぎのように説明している。

「これらの矛盾の説明は多分、『アメリカの運命』は、ブレイが以前注意を惹いたことのある社会の不平等な経済的状態よりも、当時より大なる重要性をもった共和主義の政治的基礎の考慮にアメリカのすべての階級がよびもどされえたところの手段として役立つようにもくろまれたということである。」[21]

もっとも彼の主張する分離は永久的なものではなく一時的なものである。彼は「以前のようなアメリカ合衆国」[22]へ復帰することを主張している。

「私たちは二つの国民ではなくて一つの国民である。したがって分離は必然的に一時的たりうるのみである、合衆国は私たちが分離を惹起した敵意から私たち自身を解放するやいなや再来するであろう。分離の原因はつねに制御される。」[23]

このパンフレットは以上のべたところからあきらかであるように、それほど重要な著作であるとは思われないが、彼の南北戦争観が彼の資本と労働との協同という社会思想と密接な関係をもっている点に興味がある。すなわち奴隷制度廃止論者が現存の秩序にとって破壊的であるかぎり、それはコサックであるとみなされる。この点に彼の協同思想が反映されている。

「しかし反奴隷制度運動は――それが分離自身と同よう現状にとって破壊的であるかぎり、その傾向において反アメリカ的でありコサックである、というのはそれは干渉と支配との権利をかかる権利が憲法上存しないところで要求するからである。白人に干渉し支配するのが個人ならびに州の専横な企図であることは、あたかも奴隷制度がそれ自体白人による黒人の支配であるのと同ようである。双方は同一の理由にもとづいて同ように弁護されうるか、許容されえないかである。双方は同ように共和制思想に立つコサック的革新である。」[24]

「反奴隷制度十字軍は近年北部をおおったコサック主義精神の一局面にすぎない。」[25]

「この戦争において彼等〔反奴隷制度の唱道者――引用者〕は彼等の活動がもとづいているところの主義を全然忘れがちで、コサックのドグマに似たものを実行しようとくわだてつつある。」[26]

ブレイの協同思想とのつながりを一層端的に示すものは、フランス革命観である。

「フランス革命において、その最もにくむべき行動者が自由とフランスとを愛したということは疑いはありえないが、しかし彼等はフランス革命自体のコサック主義を理解も憎悪もしなかった、もしそうでなかったら彼等はそれをかくも破廉恥に使用しようとしなかったであろう。理想は共和主義であるが、彼等の現実はコサック主義であった。」[27]

「フランスの革命党員は共和国を確立することができなかった、なぜなら彼等および彼等に権力を付与した人々がコサックであり、血と押収とのみを叫びもとめたからである。彼等は平和的妥協たる共和国の第一原則を見失った。彼等は単に一つのコサックの偶像を打ち倒してもう一つの偶像をたてた。そして、私たちは今日、私たちの年々の自賛と昔の反逆者の賛美とを完全に忘却して、みずから昔

のイギリスのコサックの立場にたち、その使い古した用語と装置とを用い、ヨーロッパおよび世界全体が同情のかわりに恐怖をもって私たちの行為をながめるのをいまだにいぶかしがっている。」[28]

ここにはブレイの権力の問題の回避と形式的自由、個人主義的自由の尊重がみられ、それはある意味でアナキズムへもつうじるものである。（さきのマルクスの論説『政治的無関心主義』における批判を想起されたい。）ブレイのフランス革命における革命党員や南北戦争における奴隷制度廃止論者にたいする消極的態度が、彼の資本と労働との協同の主張をもたらしたのと同じ歴史や社会にたいする根本的態度からきている点において本書は注目する必要がある。

注

(17) The American Destiny. p. 10.
(18) ibid. p. 11.
(19) ibid. p. 26.
(20) ibid. p. 37.
(21) Prichard. p. 22.
(22) The American Destiny. p. 28.
(23) ibid. p. 38.
(24) ibid. p. 11.
(25) ibid. p. 13.
(26) ibid. p. 14.
(27) ibid. p. 19.
(28) ibid. p. 19. 傍点引用者。

(IV) Anon.; God and Man a Unity, and all Mankind a Unity: A Basis for a new Dispensation, social and religious. The Trade supplied by the Western News Co., Chicago, B. F. Trembley & Co., 101. Griswold St., Detroit, Mich. Asa K. Butts, No. 9. Dey Street, New York City. 1879. [with photostatic reproductions of MS title pages and title page of author's copy; typescript copy of a review in the Evolution ["The Evolution" March, 1880, No. 40.]]; and typescript explanatory notes by Agnes Inglis] $7\frac{1}{2}$", pp. 96 (10), R (S. R.) 423, P 177185.

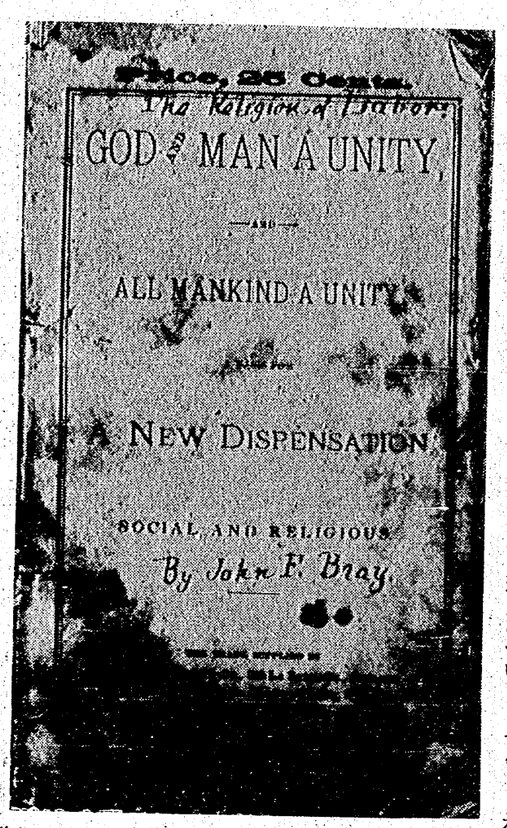
L・S・E・所蔵の本書のコピイには表記の標題にあきらかなように資料が附録としてついている。附せられた草稿の写真版は第一頁と最終頁とのみである。

(1) 附せられたブレイ私蔵本（それはイングリスによってブレイの家のトランクのうちに発見された。二三頁〔うち二頁欠如〕におよぶ草稿もそうである。）の表紙（写真版）には、タイトルの上に彼自身によって "The Religion of Labour:" としるされている。

(2) またタイトルの下に彼自身によって "By John F. Bray" としるされている。ちなみに本書は無署名で刊行されたのである。

(3) 刊行出版社および印刷所名も秘せられていたが、附せられた草稿の最終頁（写真版）に "Grenell & Co., Printers, Detroit" としるされている。（ちなみにこの Grenell の名はさきにもみたが、"the Socialistic Labor Party" の Detroit Branch で活躍しており、Tract Association の幹事であった Judson Grenell である。本書はその刊行にさいしてこの Tract Association の援助をえている。[29]）また同じく草稿の最初の頁にしるされているところによると、ブレイはそれをはじめ（一八七八年）Asa K. Butts, 19, Dey Street に送附するはずであった。

ブレイの手帖（一八七九年）によると、本書の基礎は一八三三年にできていたそうである。（L・S・E・所蔵本に附せられたイングリスの覚書による。）しかしその刊行は四六年後に実現した。彼は前述の如く一八七八年に刊行しようとしたが失敗した。著作は一八七七年になされた。それがとくに一八七九年に刊行された理由については――イングリスのべているように[30]――時代的背景とブレイ自身の生活とが考慮されねばならない。一八七七年は一八七三年のパニックとしてアメリカでしられた長期沈滞の最頂点であった。失業、労働争議が深刻な問題となった。ブレイは一八七七年に創立したデトロイトの労働新聞への寄稿を開始し、一八七九年七月四日の八時間労働日運動のためのデモンストゥレイションにおいて演説した。こうして「ブレイはよりよい世界をつくるのに参加するためにペンを手にとった。」



"God and Man a Unity" 1879. 著者私蔵本の表紙。

本書は匿名で、しかも大部分自費で出版された。しかし売行はおそろしくわるかった。一八七九年にはわずか四冊しか売れなかったとブレイ自身のべている。本書を刊行した Judson Grenell は一八八三年ブレイ宛書翰で彼の手許に五〇〇部余をもっているとつげた。ブレイは本書を主としてアメリカ、若干部をイギリス国内の人々へ自ら送呈した。売れなかった理由としては、匿名で刊行されたこと、題名が魅力的でなかったことがあげられている。当時ブレイはアメリカの社会主義者や労働組合運動においてしられており尊敬されていたから、もしも彼の名を冠したら売れたであろうとイングリスはいう。[31] しかしブレイは本書が unpopular な観念を含んでいる点に売行のわるい理由を見出している。[32] 彼は失望しなかった。むしろ再版のくわだてすらもっていた

ことが一八九五年の彼の手帖によってわかる。[33]

本書の書評は極めて少ない。わずかに左の二つが記録されている。

（1） The Labor Review. Vol. 1. Nos. 2, 4, 5, Feb., April, May, 1880.

本書中からいくつかの引用をこころみているが、それに先立つつぎのようにのべている。

「著者は、あたらしい宗教的思想やあたらしい社会的、産業的秩序を提供して、現在のキリスト教の摂理とその神学的思想や社会的実践、あたらしい摂理とその宗教的思想や社会的必要条件、あたらしい摂理の必然性を論じ、すべての階級にたいする訴えをもっておわっている。……『神と人間との統一』は、どこの人間にも適用される一つのあたらしい啓示であると主張されている。それは現在ならびに将来の世紀に同様に適用されうる生き生きした思想を提供する。それは過度の労苦、窮乏および困窮を除去する。それはすべてのものを向上させ誰をも引下さない。[34]」

（2） The Evolution. No. 40. March, 1880, published by Asa. K. Butts, No. 9, Dey Street, New York.

より詳論しているが、その数個所を引用するとしよう。

『神と人間との統一、すべての人間の統一』という標題で九六頁のきわめて急進的な力強い小著があらわれる。著者名が欠けているのは、彼の著書の迫力のある性格と彼のとりあつかおうとした問題の生き生きした興味とを考慮するならば、それは不要な削除であるように思われる。文明世界の人間大衆の悲惨な状態、社会を構成しているすべての条件――神学的条件をふくめて――の絶望的混乱状態、困窮と堕落との深みから人間性の救済をおこなうについての、それらの完全な失敗を指摘して、彼は人間の友愛と人間における神の認知とにもとづいた『社会的および宗教的新摂理』のための熱心な議論をしている。……彼の現代『文明』の糾弾は、人間における友愛的義務――その遂行がすべてのものの向上と幸福とにとって不可欠的である。――を承認することについてのその実際的拒否の根本的問責にある。著者は来世よりも現世をむしろ信じ、現世または未来の幸福にとっての最良の好機として現世での生存の改革と、できるかぎりの完成とを唱道する。……『政治的共和国は――と彼はいう。――産業上の奴隷制と結びつくとき、欺瞞である。パンのない自由は惑わしである！』提起されている命題は、急進的ではあるけれども、思慮深く人道的な人々にとっては、合理的とみえるであろう。もっともそれらは物質的にめぐまれた条件のお匿々という無関心で浅薄でぬけめのない利己主義の階級によっては、実行がたいとか無政府的と非難されるであろう。[35]」

本書の内容については主著研究において詳論する予定であるが、私のみるところでは、本書の価値は『労働の不当な処遇』と充分匹敵しうるものである。この点、私は本書を過小評価するロイド・プリチャードと見解をことにする。[36] 本書が売れなかったのは、ブレイ自身ののべるようにそれが unpopular な観念をふくんでいた点にもとめられねばならない。このことは、逆にいえば、本書の内容が時代にさきがけていたということである。彼の宗教論、キリスト教批判は、サン・シモンの『新キリスト教』一八二五年、フォイエルバハの『キリスト教の本質』一八四一年と比較しうる無神論史上の貴重な文献である。そこにはある種の宗教的疎外論らしいもの――もちろん「疎外」という用語はみられないが――すら見出せる。しかも宗教批判が現実的社会批判の一環としてなされていることが注目される。ブレイがかりに『労働の不当な処遇』をかかなかったとしても、本書の著者としてその名が充分記録されるべきである。

注

（29） Carr. p. 410.

（30） Bray Material. Vol. I. Item 23, Folio 57.

（31） Inglis. p. 15.

（32） BS. p. 19.

（33） Jolliffe. p. 11. Prichard. p. 29.

（34） Bray Material. Vol. I, Item 11—13, Folio 19—22. この書評はイングリスの意見では、Judson Grenell によってかかれたらしい。

（35） ibid. Item. 14, Folio 23—24. なお L・S・E・所蔵 "God and Man a Unity" 附録にも収録。

（36） 「けれども全体としてみれば、『神と人間との統一』は失望させる。それは現存の神学に対する卓越した攻撃ではない。それはブレイの時代の社会問題の満足な分析を与えていないし、それに対する解決はあざやかしいものでもなければ完全でもない。宗教的改革者としてブレイは成功者でなかった。彼は政治的、社会的改革者であった。さまざまの目的を結合させようとする試みにおいて、彼の著述はこの時期の労働新聞のために彼がかいていた論説を特徴づけている気力と鋭敏とをいくらか失っていた。」（Prichard. pp. 27—28. なお Jolliffe. p. 11. 参照。）

（V） A Voyage from Utopia edited with an introduction by M. F. Lloyd-Prichard. London, Lawrence and Wishart, 1957. 8 $\frac{1}{2}$". pp. 192, R. W 62, 199, 238552.

本書はブレイの生前には刊行されなかった。執筆の時期や動機については、現行版の三五頁下段に付せられたブレイ自身のつぎの注にあきらかである。

"February 1873—This was written in England between 1840 and 1841—as I left early in 1842. Here I am in Michigan! 1873. As the critics thought I was 'Utopian', I wrot this to show what existed *outside* of Utopia."

最後の文章からあきらかなように本書は『労働の不当な処遇』を目して空想的であるとする批判にこたえてかかれたものである。[37] 本書の内容については、主著研究で詳述する予定であるからここではふれない。[38] 要するに『労働の不当な処遇』においてのべられた当時の社会の分析がけっして空想的でないことを証明するために、主人公のユートゥピアンがよその国々――それは Brydone、Amrico、Franco の名でよばれている。いうまでもなくイギリス、アメリカ、フランスのことである。――を遍歴してそれらの国々においても同一の事態であることが示されるのである。

本書は出版されなかった。おそらくその大胆な社会諷刺と顕著な

共和制的反牧師的見解とのために出版の困難が予想されたためであろう。草稿の署名はのちにみるように Yarbfj と匿名であった。フグニス・イングリスは、もしも本書が刊行されたならば、それをよんだものは本書が『労働の不当な処遇』とあいならぶ地位をたもつというであろうとのべている。[39] 刊行者のロイド・プリチャードはつぎのようにのべている。

「ブレイは彼の時代の社会秩序の批判者から、彼の見解のすべてではないまでも若干にたいして強力な支持をえたであろう。労働者階級の政治家および階級闘争の理論家はそれを歓迎したであろう、といいうるのは他のものたちはこの体制をそこでは幾階層かの抑圧的階級が労働者の背に依存している体制としてのべたけれども、その仕事をかくも精力的に大胆におこなったものはまれであったからである。なおその上彼等はそれが非常に有用的であるのを見出したであろう。というのは、『航海』は簡明にかかれており生き生きしており、この二つの性質は実際を記述するよりもむしろ理論を分析した他の一層複雑な著作よりも宣伝書として本書をより大なる価値あるものとしたであろうからである。

『ユートウピアからの航海』は、それが私たちに一九世紀初期の生活くの一層の洞察と改革についてのブレイの意見とをあたえるという点で価値があるといわれうるが、他の空想的渡航記と同一の水準をもつということは承認されえない。」[40]

その理由としてプリチャードは、ブレイの表現能力のよわさをあげている。だが本書はユートウピア物語としてよまれるべきものではない。前述のように『労働の不当な処遇』にたいする批判にこたえて当時のイギリス、アメリカ、フランス（このうちアメリカには執筆当時帰国していなかったし、フランスくもおとずれていなかった。）の社会批判をこころみたものである。ユートウピアはそのための皮肉な形式として採用されたにすぎない。時代はもはやユートウピア物語を困難ともし、不必要ともしつつあった。本書中における辛辣な宗教批判は、前述の『神と人間との統一』の基礎が一八三三年に成立していたということを証するものであろう。

注

(37) カーはこのような解釈につぎのように異説をとなえている。「誰かがブレイをユートウピアンであるといって非難する形跡はこれらの書評のどれにも存しない。しかしだが彼は彼の最初の書物の続篇をかくことにたいする彼の口実としてこれをあたえた。」(Carr. p. 405.) しかしカー自身が引用している書評中には『労働の不当な処遇』で提案された救済策を目して「空想的」で「実行しがたい」とする Leeds Times の批評がみられるし、その他にも彼の救済策に反対であったり懐疑的であったりした書評があることは、すでにみたところである。したがってカーの異説は意味がない。

(38) 本誌昭和三三年一二月号に飯田鼎助教授の本書の紹介がある。

(39) Inglis. p. 10.

(40) Prichard. pp. 18—19.

B、草稿および資料

(I) Bray, J. F.; A voyage from Utopia to several unknown regions of the world: by Yarbfj; translated from the American. [manuscript]. 1840—1841. 9". pp. 8, 325. R (S.R.), 1047, M 57.

〜前出（A）Vの草稿。ちなみにL・S・E・の図書カードでは執筆時期が一八四二年としるされている。

(II) Bray, J. F.; [Miscellaneous MS. papers]. [c. 1870]. $7\frac{3}{4}" \times 9\frac{1}{4}"$. 2 Vols. pp. 63. R (S. R.), 203, M 77.

Vol. I. Folios 28, pp. 56.

1. God and Man a Unity; pp. 6—8, Folio 1—2.
2. God and Man a Unity; pp. 86—91, Folio 3—8.
3. God and Man a Unity; pp. 92—96, Folio 9—12.
4. Re-organization of industry on a republican basis; pp. 55—69, Folio 13—20.
5. American Destiny; pp. 40—41, Folio 21.
6. Organization of industry; Folio 22.
7. [Money and the people]; pp. 6—11, Folio 23—25.
8. [Remedies for industrial wrongs]. Folio 26.
9. [Socialism *versus* individualism]. Folio 27.
10. A biographical chart. Folio 28.

Vol. II. pp. 7.

1. Unequal Exchanges, Editor of the Labor Tribune. Folio 1—3.
2. From J. F. Bray: Pontiac, Dec. 12, 1876. Editor National Labor Tribune, Folio 1.

Vol. I. は草稿の雑纂である。きわめて断片的。1—5、7は著書の執筆または改訂のための準備を示している。右の目次にしるされている頁数は原本の頁数を示す。（ただし4、7の原本は明らかでない。）私が1—3を原本の "God and Man a Unity" と対照したところ、草稿は原本でかなり改訂されている。10は紀元前一〇〇〇年から紀元後一七〇〇年までの思想家の位置を示した年表。

また8においては、つぎの七項目があげられている。(一)労働の隷従的、従属的状態の廃止、(二)労働と資本との産業上の平等、(三)雇傭者および被傭者としての現存の階級差別の廃止、(四)労働と資本との協同的結合、(五)かくの如き結合の生産物の公正な分割、(六)その結果としての、一人の人間あるいは一階級の雇傭についての他の人間あるいは階級くのすべての依存の廃止、(七)投資くのすべての利息あるいは利子の廃止。

Vol. II. の2の年代は一八七〇年でないことに注意。（1の年代は明記されていない。）なお2は新聞切抜である。1においては資産の対立が不平等な交換からうまれると説明され、その救済策は階級的区別の廃止と普遍的協同の確立とにもとめられている。2は教育論である。読みかきのみならず環境による教育（影響）の重要であることがのべられ、雇傭、賃金などの労働条件をよくすることが政府にすすめられている。

(III) Bray, J. F.; Machine-made Christians. [manuscript].

[c. 1870 ?] $6\frac{1}{4}$" × $7\frac{3}{4}$". pp. 29. R (S. R.) 201, M 75.

ここで machine とは ecclesiastical machine のことであって、教会が意味されている。神学および教会の批判。

「キリスト教徒を製造しようとこころみる神学的機械は、彼等を不具にし台なしにする社会的機構と競争することができない。[1]」「それ〔神学—引用者〕は社会の平等な状態を設立しようと企てなかった。それはあらゆる種類の不公正をゆるした。今日では、社会の慣習が労働からかっぱらうことを可能にしている略奪品をたくさん附与された百万長者が聖所において最もよろこびむかえられる人である。[2]」

(Ⅳ) Bray, J. F.; Common Sense for Farmers (and "About Labor and Capital and Government—a new social order"). [incomplete manuscript]. [c. 1870 ?]. $6\frac{1}{4}$" × $7\frac{3}{4}$". pp. 1—10, 13—18. R (S. R.) 198, M 72.

ロイド・プリチャードはのべている。「刊行された書翰や保存されてきたブレイの著作の草稿は、彼が一八七〇年代を通じてきわめて活動的であったことを示している。彼は貨幣・信用について、あたらしい社会経済的秩序、あたらしい独立宣言の必然性についてかいた、また農民としてもちろんブレイは彼の仲間の農民の運命やその当時のグレインジァ運動〔一八六七年に農家の利益促進のためにアメリカで創立された団体、グレインジ(grange)の運動—引用者〕に関心をもった。ブレイは "Common Sense for Farmers" において鉄道の取り立て、中間商人、銀行家、金貸業者の不法徴収についてのべ、なぜグレインジすなわち農民の労働組合が発生したかを示した。同じ頃ブレイが起草した一連の決議案はつぎのようにむすばれた。『労働の独立の旗を掲げこの偉大な目的を確保するために献身することによって産業上の正義に対するその忠誠を証するようなグレインジや労働新聞のもっとも広範にして排他的な支持を私たちは推すものである。[3]』」

(Ⅴ) Bray, J. F.; The Wage Workers' Declaration of Rights. [manuscript]. [c. 1870 ?]. $6\frac{1}{4}$" × $7\frac{3}{4}$". pp. 9. R (S. R.), 199, M 73.

この草稿は一九三七年五月、ミシガン、ポンティアックのブレイの家でアグニス・イングリスによって発見され、フレッド・ブレイの妻アナ・ホルツ・ブレイによって彼女に寄贈され、さらにイングリスからロイド・プリチャードへ、後者からL・S・E・へ寄贈された。「私たちは大なる賃労働者階級と大なる雇傭する・〔一字?〕・資本家階級とを有し、前者は仕事とパンとについて後者に依存している。この階級的従属と、それから生じる不平等とは、社会的あるいは産業的調和にとって致命的である。……社会それ自身は、個人と同様、改良されうるし、すべてのものにとって利益となり、だれにも負担とならないように組織されうる。[4]」「機械の導入による生産様式の変化は、たえず価値を動揺させ熟練労働を排除しつつあるのである。労働者は人間の本能と野獣の生き生きした〔一字?〕とをもった単なる機械に堕落しつつある。このような状態にたいする反抗は自然的であり、不可避的であり、進歩と発展との法則そのものによって生じる。[5]」「労働はかの協同がいかにおこなわれるべきか、また労働の時間と賃金とがいかほどであるべきかをまえもって指図しない。労働と資本とは平等な利害関係にあるから、両者の間に相互的協定があるべきである。[6]」「労働がかくの如き協同を要求する権利を有するということは、生産物の分割におけるこのようなひどい不公平から、また労働が一切の富の本源的創造者であるという他の基本的事実から生じる。労働はあらゆるものに対する第一の資格および唯一の公正な資格をもっている。[7]」「それ〔労働—引用者〕は現存の富を没収したり、資本の公正な権利に干渉したりするつもりはない。しかしそれは現存の生産諸能因——鉱山、製造所、機械および他の諸能因……の協同的使用を要求する。[8]」

(Ⅵ) Bray, J. F.; A new Declaration of Independence; (and, resolutions). [manuscript]. [c. 1875 ?]. 7". pp. 5, 4. R (S. R.) 200, M74.

「資本貴族はあらゆるものを専有してきた。したがって階級闘争と、労働と資本との間の戦闘とを終らせ、公正と労働の独立とを確立させるために、私たちは、いまや、労働の普遍的統合と協力とにもとづき、団体的であるにせよ個人的であるにせよすべての形態のもとにおける資本の拙劣な管理、搾取および専制から解放された産業上の再組織を要求する。かくの如き協力を確立し労働をうごきださせるために、私たちは適切な額の国定法貨の使用を要求する、この法貨は連邦政府によって発行費を負担して諸州に発行され、また諸州によって諸地方に分配される……労働があらゆる富の創造者であり、あらゆる国の主要な資源であるから、この結果、私たち、これら連合諸州の団結した賃金階級は、私たちのために発行されたすべての通貨が労働あるいは生産物とその額面において正確に兌換されるべきことを自ら誓うものである。無数の世紀の労働の経験は、私たちが通常の政府から期待すべきなにももたないということを教えている、したがって私たちは一団としての自己雇傭をともなう・敵対的階級の支配からの労働の独立を要求する。[9]……」

なおこの草稿には "Resolutions' whereas and Resolved, by John Francis Bray" と題する草稿が附されている。後者中の第五の決議案は、さきにⅣの草稿に関連してロイド・プリチャードが言及している決議案である。

(Ⅶ) Bray, J. F.; The God of the Jews and the God of the Universe; (and, Matter for Thought). [manuscript]. [c. 1880 ?] $7\frac{1}{2}$" × 8". pp. 11, 16. R (S. R.), 202, M76.

(Ⅷ) Bray, J. F.; Brief Sketch of the Life of John F. Bray, social, political and religious Reformer. [manuscript]. 1890—1891, 8". pp. 24. R (S. R.), 208, M106.

この自伝草稿はブレイの息子の妻、アナ・ホルツ・ブレイから寄贈されたもの。もともとアグニス・イングリスによってブレイの死後四〇年、一九三七年九月に発見されたものである。ブレイ伝の貴重な資料。

(Ⅸ) Reviews of "Labour's Wrongs and Labour's Remedy," ed by John Francis Bray, 1839—1890, saved by J. F. Bray. Notation made Sept. 1937. written by Agnes Inglis, $7\frac{3}{4}$" ×

9 $\frac{1}{2}$", 12 pts. (in 1). R (S. R.) 125, M54.

このスクラップブックが『労働の不当な処遇』の刊行後、イギリス滞在中にブレイ自身によってつくられたことはたしかである。彼はこれをこの書物の私蔵本とともに保存した。一九三七年、アナ・ブレイからアグニス・イングリスへ、一九三八年、後者からL・S・E・へおくられた。（イングリスの覚書による。）

収録されている書評は、すでに著書目録（I）の "Labour's Wrongs and Labour's Remedy" の項においてみたところである。

(X) Bray, J. F.; Material by and concerning J. F. Bray; collected with an introductory essay on Bray, by Agnes A. Inglis: mainly photostatic reproductions of newscuttings, letters, etc. 1822—1943. 5"×11". 4 Vols. R (Coll.), Misc. 72. M107.

各巻の目次はつぎのとおりである。（ここに収録されているブレイの新聞論説の一部分はのちにジョリフ〔ミロイド・フランチャード〕によってまとめて発表された。Jolliffe, M. F.; John Francis Bray. International Review for Scoial History. Vol. IV. 1939. pp. 1—38. 以下の目録においてカッコ内に Int. Review. p.……、とあらわされている頁数は、右の頁数を示す。）

Vol. I.

1. Typescript lists of Bray material sent to the London School of Economics at various times, by Miss Agnes Inglis (Folio 1—9.)
2. Bray, J. F.; The issue coming upon us. (negative photostat of article in THE SOCIALIST ((Detroit)), Vol. I, No. 9, Dec. 8, 1877) (Folio 10.) [Int. Review. p. 19.]
3. Bray, J. F.; What are labor's rights? (positive photostat of article in THE SOCIALIST ((Detroit)), Vol. II, No. 2, Jan. 12, 1878.) (Folio 11.) [Int. Review. pp. 20—21.]
4. THE SOCIALIST (Detroit), Vol. II, No. 18, May 4, 1878. Editorial notes [twice mentioning J. F. Bray]. (negative photostat) (Folio 12.)
5. DETROIT LABOR LEAF, Vol. II, No. 34. June 30, 1886. John F. Bray: A labor reformer for more than half a century, and yet filled with brightening hopes. (positive photostat) (Folio 13.)
6. Bray, J. F.; What is in the way? (positive photostat of article in the DETROIT LABOR LEAF, Vol. I, No. 47. (Sept. 30, 1885) (Folio 14.) [Int. Review. pp. 23—25.]
7. Bray, J. F.; The revolution. (positive photostat of article in the DETROIT LABOR LEAF, Vol. I, No. 51, Oct. 28, 1885) (Folio 15.) [Int. Review. pp. 25—26.]
8. Bray, J. F.; The Knights of Labor. (positive photostat of article in the DETROIT LABOR LEAF, Vol. II, No. 1, Nov. 11, 1885) (Folio 16.) [Int. Review. pp. 26—27.]
9. Bray, J. F.; Coming to the final Issue. (positive photostat of article in the DETROIT LABOR LEAF, Vol. II, No. 24, April 21, 1886) (Folio 17.) [Int. Review. pp. 27—28.]
10. Bray, J. F.; Set it all down. (positive photostat of article from the DETROIT LABOR LEAF, Vol. II, No. 32, June 16, 1886) (Folio 18.) [Int. Review. pp. 28—29.]

11—13. THE LABOR REVIEW, Vol. I, Nos. 2, 4 and 5, Feb., April, May, 1880. (Extracts mentioning God and Man a Unity). (positive photostats) (Folio 19—22.)

14. THE EVOLUTION, March, 1880. Notable pamphlets: (review of God and Man a Unity; by E. M. H.) (positive photostat) (Folio 23—24.)
15. Bray, J. F.; Mr. Bray's platform. (positive photostat of article from JOHN SWINTON'S PAPER, Vol. IV, No. 169, Jan. 2, 1887) (Folio 25.) [Int. Review. pp. 29—30.]
16. Reuber, Karl; Poem to John F. Bray on his 85 the birthday; with a portrait of Karl Reuber. (positive photostats of extracts from the LABOR STANDARD and the NATIONAL LABOR TRIBUNE, July 2, 1893) (Folio 26.)
17. Reuber, Karl; Hymns of Labor. (Folio 27—38.)
18. E. Pluribus Unum; Navigation of the air. (positive photostat of article from the PONTIAC JACKSONIAN, Vol. II, No. 28, Nov. 22, 1848) (Folio 39—40.)
19. Bray, J. F. (Address delivered at the first general meeting of THE LEEDS WORKING MEN'S ASSOCIATION.) (positive photostat of an extract from the LEEDS TIMES, Sept. 23, 1838) (Folio 41.)
20. THE LEEDS WORKING MEN'S ASSOCIATION. To the Birmingham Political Union, and the working men and working men's associations of the United Kingdom. (positive photostat of a newscutting) (Folio 42.)

21—22. THE LEEDS WORKING MEN'S ASSOCIATION. (Notice of a course of 3 Lectures by J. F. Bray; and reports of the first and last lectures.) [positive photostats of newscuttings] (Folio 43—44.)

23. Bray, J. F.; (Typescript extracts from the writings of John Francis Bray; Compiled by Agnes Inglis). 1869—1897. (Folio 45—72.)
24. MS. note-book used as a scrapbook for newscuttings on astronomy, science, *etc.*; with 3 loose cuttings) (Folio 73—99.)

25—26. Finnie, Elihu. MS. Letters to [J. F. Bray], 7 Apr. and 30 Jul. 1894. [positive photostats] (Folio 100

—103.)

27—29. Reuber, Karl. MS. Letters to Bray, 17 June, 1893, 26 May, 1895 and 8 Nov. 1896. (Folio 104—108)

30. Hobson, Joshua. The poor man's companion: a political almanack for 1842, etc.; (with marginal notes, *etc.* by J. F. Bray). (positive photostat) (Folio 109—117.)

31. Family record; Marriages, births, deaths. [manuscript; positive photostat] (Folio 118—121.)

32. Register of children's ages. (manuscript; positive photostat) (Folio 122—128.)

33. Silhouettes of J. F. Bray's father and mother, 1809. (positive photostat) (Folio 129.)

34. Portrait of Ann Bray, 1822. (positive photostat) (Folio 130.)

35. Portrait of John Francis Bray, aged 13. 1822. (positive photostat) (Folio 131.)

Vol. II.

1. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, and his sister, Frances; [with] postscript from their brother Edwin, 9 May, 1834. (positive photostats)
2. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 27 Jan. 1835. (positive photostats)
3. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 5 Dec. 1838. (positive photostats)
4. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 31 July, 1840. (positive photostats)
5. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 1 April, 1841. (positive photostats)
6. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 30 July, 1841. (positive photostats)
7. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 2 Oct. 1841. (positive photostats)
8. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 1 Dec. 1841. (positive photostats)
9. Bray, Charles F. MS. letter to his brother, John Francis, 1 Feb. 1842. (positive photostats)
10. Bray, John [Francis], MS. letter to his mother, 26 Apr. 1823. (positive photostats)

Vol. III.

1. Photograph of John Francis Bray (26 June, 1809—1 February, 1897). Probably taken about eightieth year.
2. Photostat copy of No. 2, Vol. 2 of THE WORD, 1873 (Princeton, Mass.) containg a letter from Bray to the third Annual Convention of the American Labor Reform League, and reporting his election as a Vice-President of the League. [Int. Review. p. 17.]

3. Photostat copy of a letter to the WORKINGMAN'S ADVOCATE (Chicago, III.), May 5, 1877. [Note added by Miss Agnes Inglis) [Int. Review. pp. 18—19.]
4. Photostat copy of a contribution to the LABOR STANDARD (Paterson, N. J.), December 31, 1892 —"A Platform for Farmers and Wage Workers." (Note by Miss Agnes Inglis on reverse side) [Int. Review. pp. 30—31.]
5. Clipping from the CARPENTER, June 1893—"Juggernauts". (Note by Miss Agnes Inglis) [Int. Review. pp. 32—33.]
6. Photostat copy of a letter to the LABOR STANDARD (Paterson, N. J.), September 2, 1894—"What will you do about it?" (Note by Miss Agnes Inglis on reverse side) [Int. Review. pp. 33—34.]
7. Clipping from the LABOR STANDARD (Paterson, N. J.), September 12, 1896 — letter, A "Sound Dollar". [Int. Review. pp. 35—36.]
8. Photostat copy of "Reforms" (February, 1894)
9. Photostat copy of "Steps to Reform" (1894)
10. Typescript notes by Miss Agnes Inglis, Ann Arbor, Mich., containing material relating to Bray's experiences in England and the people he knew there, and a list of the books found among his papers.

[Vol. IV.]

Introductory Essay on Bray, by Agnes A. Inglis. pp. 17. 本巻はくりに新回答とは題されてゐなら同書である。本書はくりに新回答とは題されてゐる。 Agnes Inglis, 227 South Thayer Street, Ann Arbor, Michigan, June 13th, 1943.

注

(一) J. F. Bray; Machine-made Christians. [MS] [c. 1870?] pp. 27—28.
(二) ibid. p. 28.
(三) Prichard. p. 25.
(四) J. F. Bray; The Wage Workers' Declaration of Rights. [MS] [c. 1870?] p. 3.
(五) ibid. p. 4.
(六) ibid. p. 5.
(七) ibid. p. 6.
(八) ibid. p. 6.
(九) J. F. Bray; A new Declaration of Independence…… [MS] [c. 1875?] pp. 3—4.